

ユーザーを  
訪ねて



## 株式会社富田製作所 古河工場

# 厚板精密板金加工メーカーとして サプライチェーンの中核を担う



本社・古河工場外観



代表取締役社長  
富田修氏



取締役  
古河工場長  
秋山君男氏



営業技術部  
担当部長兼品技チームリーダー  
高橋滋氏



建設中の古河工場  
新工場予定地

(株)富田製作所殿は、フォークリフトなどの輸送用機器・建設機械部品や、東京スカイツリー®などに使われた長尺大径厚肉鋼管の製造を得意とする厚板精密板金加工メーカーだ。同社古河工場を訪ね、お話をうかがった。

### — 貴工場の特徴を教えてください。

「当社は(株)小松製作所殿と長年お取引をさせていただいています。同社が小山工場を開設した際、当社としても受注確保と会社規模の拡大を図っていくためには小山市

の近くに工場を持たなければならないと判断し、1968年に当工場を開設した経緯があります。当工場はこれまで主にフォークリフトのフィンガーボードと呼ばれる爪を支える部品を製造してきました。工場稼働直後にフォークリフト需要が拡大し当社の受注量は劇的に増えました。多種多様な部品の受注に柔軟に対応するため、設備投資と拡充を行いながら現在の生産体制を整えていきました」

### — フィンガーボードの生産体制についてお聞かせください。

「FMS(Flexible Manufacturing System:多品種少量自動生産方式)を採用し、23機の溶接ロボットによる自動ラインを1990年に設置しました。これにより受注数の約50%が工数ゼロとなり大幅な省力化を実現しました。ただし自動化できるのは15品種程度で、大半を占める少量多品種は半自動です。溶接技能者に対しては、JISの基本級や専門級の取得と連動させながら、当社独自の技量試験を実施しています。溶接の技量試験にはプレス技能者も参加しており、全社的に切磋琢磨しながら技能向上を図っています」

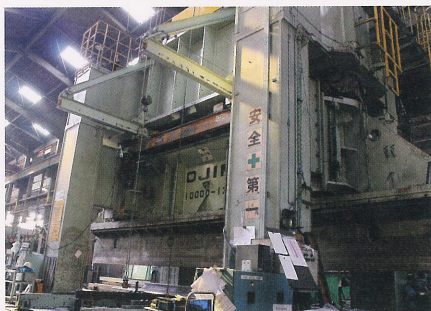
### — もう一つの事業の柱である長尺大径厚肉鋼管の製造について教えてください。

「1万tプレスは創業者が用途も決まっていないうちから導入したのですが、念ずれば道は拓けるものです。お客様回りをして行く中で、徐々に肉厚大径管づくりの仕事が取れるようになり、1994年につくば工場を開設し生産体制を強化しました。東京スカイツリー®の鼎柱で地中から地上約150mまでの部分に使われている鋼管製造では、溶接材料にNSSW NF-1×NSSW Y-DMを採用し、内面は15層、外面は20~25層に及ぶ多層盛り溶接を施しました。ビード外観がとてきれいに仕上がりに、総重量約1,000tのべ70本を無欠陥で無事納品することがで

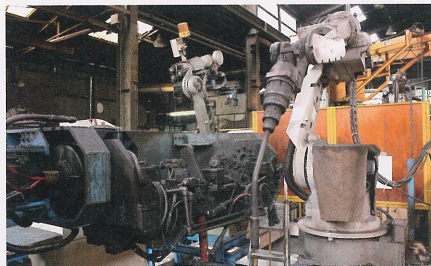
き、関係先から『丁寧なものづくり』という高い評価をいただきました。こうした経験が当社の財産となり、今年9月20日にオープンした東京駅八重洲口グランルーフの梁鋼管製造などの受注にもつながりました」

### — 今後の抱負をお聞かせください。

「当社は2012年7月、経済産業省の平成23年度第3次補正予算で措置された『国内立地推進事業費補助金』の二次公募採択事業に採択されました。この事業は東日本大震災からの復興を図ることを目的としたもので、当社は当工場の隣接地に新たに工場2棟を建設し、2014年3月には長尺大径厚肉鋼管生産能力を倍増させる予定です。さらに2020年夏季五輪の開催都市が東京に決まり、建設関連需要が高まるものと期待されます。これからもサプライチェーンの中核となる代替が効かない部品・素材分野の生産拠点としての役割を果たしていきたいと考えています」



1万トンプレス



FMS自動ラインの溶接ロボット



半自動で少量多品種生産に対応

### 最近採用頂いているおもな製品

NSSW NF-1×NSSW Y-D  
NSSW Y-DM  
NSSW YM-26 NSSW YM-28S  
NSSW SM-1F

### 会社概要

創業 1951(昭和26)年  
設立 1956(昭和31)年  
代表者 代表取締役社長 富田修  
資本金 8,800万円  
従業員 161人  
本社・古河工場

〒306-0206 茨城県古河市丘里11  
電話 0280-98-3376

### つくば工場

〒304-0004 茨城県下妻市大木上原1333  
電話 0296-44-7311

### 主要事業内容

- 超大型鋼構造物製作
- 建設機械、産業車輛等精密板金部品